

倫理学習の方針と倫理学習項目を含む科目

建築・デザイン分野 専門教育科目（創造工学教育課程主軸専門科目を含む）		
建築・デザイン分野の倫理に関連する学習の方針	・ 建築を構成する各分野の観点から過去の問題を論じることで、現代社会が抱える課題を把握した上で応用的技術を学習する土壌を作る。 ・ 建築設計製図を軸として現在の社会課題に向き合い、課題に即して建築に関するものづくりに取り組める人材を育成する。	
	倫理学習項目を含む科目	
科目名	倫理学習の内容	
	記号※	説明
<u>社会工学概論</u>	A, B	建築の各技術分野が建築の発展にもたらしてきた価値や建築をとりまく社会・生活・文化について講義する。
建築法規・行政	A, B	建築倫理に直接関わる、建築の際に遵守すべき建築関連法令について講義する。
<u>建築設計製図Ⅲ</u>	B, C	これまで建築がもたらしてきた価値を把握した上で、現在の社会課題に向き合い、これからの建築について教員と議論する。
<u>建築設計製図Ⅳ</u>	B, C	これまで建築がもたらしてきた価値を把握した上で、現在の社会課題に向き合い、これからの建築について教員と議論する。
<u>建築設計製図Ⅴ</u>	B, C	これまで建築がもたらしてきた価値を把握した上で、現在の社会課題に向き合い、これからの建築について教員と議論する。
<u>建築設計製図Ⅵ</u>	B, C	これまで建築がもたらしてきた価値を把握した上で、現在の社会課題に向き合い、これからの建築について教員と議論する。
耐震・防災学	B, C	地震、津波等の自然外力に対する建物・社会の安全性確保の考え方を学び、建築構造技術の役割を理解する。

※科目名下線は必修科目。また、二重下線は創造工学教育課程においても必修科目。

※記号は以下を示す。

- A) 当該分野技術等が引き起こした社会問題、事故、技術者倫理
- B) 当該分野の技術がもたらしてきた価値、社会変革、貢献し支えてきた社会・生活・文化
- C) 現在の社会課題や未来社会へ当該分野のふさわしい貢献、未来への影響に関する議論
- D) 当該分野の学習や研究開発への態度、研究倫理に関する議論
- E) 当該分野の関連学協会の倫理綱領等
- F) その他

倫理学習の方針と倫理学習項目を含む科目

環境都市分野 専門教育科目（創造工学教育課程主軸専門科目を含む）		
環境都市分野の倫理に関連する学習の方針	・ 環境都市分野が社会基盤を支える重要性を考慮し、技術者倫理を重視しつつ、安全性、環境親和性、持続可能性に配慮できるエンジニアを育成する。	
倫理学習項目を含む科目		
科目名	倫理学習の内容	
	記号※	説明
<u>環境生態学</u>	A	これまで、建設分野が行なってきた開発のうち、地域に与える影響がわかっていたにもかかわらず強硬な姿勢で開発を行った結果、様々な弊害をもたらした事象について例を挙げて説明を受け、技術者としてどのような対応をとるべきであったかについて授業内で議論を行う。さらに、これらの件を取り上げ具体的にどのようなことをするべきであったかについてのレポートを作成する。
<u>産業論</u>	C	国土交通省の現役職員や、地方自治体や民間建設会社の両方を経験した OB 等の外部講師により、複数の視点から土木工学が国土形成・メンテナンスにおいて果たすべき役割について学ぶ。
<u>環境都市技術者倫理</u>	A,E	技術者としての的確な倫理的判断を下すことができるようになるために、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および、技術者が社会に対して負っている責任を理解する。
<u>実践研究セミナー</u>	B,C,D	土木工学の代表的な分野について外部講師による説明から、土木工学が防災やインフラ整備において果たすべき役割について学ぶ。さらに PBL 演習において、防災・エネルギー・維持管理・都市計画分野における新たな技術導入について、学生がテーマ設定し、経済・技術的要素のみならず地域社会への影響・貢献の在り方についても議論し発表する。
建設マネジメント	B,E	土木学会が定める土木技術者の倫理規定を解説し、青山士、宮本武之輔、八田與一の偉業を紹介するビデオを視聴し、(1)日本と他国と土木技術者、(2)結果(偉業)と意思決定、(3)偉人と私たちについてレポートにまとめる。

※科目名下線は必修科目。また、二重下線は創造工学教育課程においても必修科目。

※記号は以下を示す。

- A) 当該分野技術等が引き起こした社会問題、事故、技術者倫理
- B) 当該分野の技術がもたらしてきた価値、社会変革、貢献し支えてきた社会・生活・文化
- C) 現在の社会課題や未来社会へ当該分野のふさわしい貢献、未来への影響に関する議論
- D) 当該分野の学習や研究開発への態度、研究倫理に関する議論
- E) 当該分野の関連学協会の倫理綱領等
- F) その他

倫理学習の方針と倫理学習項目を含む科目

経営システム分野 専門教育科目（創造工学教育課程主軸専門科目を含む）		
経営システム分野の倫理に関連する学習の方針	・ 経営工学や経営システム工学を構成する経営・経済学、数理解析、OR、生産管理・品質管理、システム工学、人間工学や組織行動学等の技術が過去から現在にもたらした課題の重大さ等、環境や社会生活に与える影響が考慮しつつ技術開発に取り組むことのできるエンジニアを育成する。	
	・ 経営システム分野が社会基盤を支える重要性を考慮し、技術者倫理を重視しつつ、安全性、環境親和性、持続可能性に配慮できるエンジニアを育成する。	
	・ 経営工学や経営システム工学の発展と共に社会や生活が大きく変化してきたことを認識させ、今後の展望や未来への影響を理解して技術開発に取り組むことのできるエンジニアを育成する。	
倫理学習項目を含む科目		
科目名	倫理学習の内容	
	記号※	説明
プロジェクトマネジメント	A,B,D,E	プロジェクトの作成と管理の技術が持続可能な社会にとって重要な技術要素であることを説明し、プロジェクトを運用する PM（プロジェクトマネージャー）の観点からの評価法を学ぶ。
マーケティング戦略	A,B,C	マーケティングの歴史を通して、製造業や関連する産業の発展で生じた社会的な問題と課題の特徴と主に、社会や企業がどのように問題解決をし、新しい視点の社会活動が普及してきたかを説明する。その中で、問題解決で生じる倫理的な問題と対策などを説明する。
プログラムデザイン	A,B,C,D	情報システムの技術の発達により、どのように社会生活が変革し、社会に影響を及ぼし、変革とともに生じた倫理的な問題を紹介する。また、情報システム開発の演習課題では現実での適用を想定した開発の問題を取り上げ、問題解決の考え方とシステムの利用時に生じる問題の事前評価を行う課題を通して、問題発生の対策の心構えを理解する。
社会セキュリティマネジメント	A,B,C,D	社会活動で生じるトラブルの特性を理解するとともに、危険性や事故の可能性等、各種システムを開発する上でのセキュリティの重要性について説明する。あわせて、事業継続マネジメントの観点から、多くのセキュリティの技術はもちろんのこと、システム管理要素であることを理解し、適切なシステム管理およびシステム監査について学ぶ。

※ 科目名

下線は必修科目。また、二重下線は創造工学教育課程においても必修科目。

※記号は以下を示す。

- A) 当該分野技術等が引き起こした社会問題、事故、技術者倫理
- B) 当該分野の技術がもたらしてきた価値、社会変革、貢献し支えてきた社会・生活・文化
- C) 現在の社会課題や未来社会へ当該分野のふさわしい貢献、未来への影響に関する議論
- D) 当該分野の学習や研究開発への態度、研究倫理に関する議論
- E) 当該分野の関連学協会の倫理綱領等
- F) その他